

取組みの概要及び採択理由

応募テーマ	地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム (テーマ：臨床能力向上に向けた薬剤師の養成)
取組名称	医療の現場と直結した薬剤師養成教育の実践
取組単位	薬学部
取組担当者	薬学部 教授 高石喜久
<p>取組の概要</p> <p>本学薬学部では、臨床現場において高度な医療薬学の知識と技能を有する薬剤師を養成するため、国立大学で初めて附属病院と連携した臨床薬学講座3分野を設置し、実践型の薬剤師養成教育を開始した。本取組では、この臨床薬学講座を核に、医学部、歯学部、統合医療教育開発センター、附属病院と連携し、1～3年次学生には、生涯を通じて学習する習慣を身につけさせる学生参加型医療薬学科目の導入、全医療人に求められる人間力やチーム医療等に関する医療系学部共通科目の修得、4～6年次学生には、臨床能力を備えた先端医療薬学科目等の充実、また薬学部教員には、医療人としての再教育システムを構築し、教育課程と教育システムの改革を行い、「モノとしての薬が分かる薬剤師」とどまらず「患者さんのところが分かり、問題解決能力のある薬の専門家」を養成する。さらに、この成果を全国に情報発信し、薬剤師養成教育に寄与する。</p>	
<p>採択理由</p> <p>患者さんのところが分かり、問題解決能力のある薬剤師を養成するため、統合医療教育開発センターを設置して、医学部・歯学部・附属病院との連携を図っての取組は新規性が認められる。附属病院内に臨床系講座3分野を設置し、教育・研究だけでなく、診療にも直接関与している点が独創的で教育の質の向上が期待される。実施体制はほぼ整っており、教育内容・方法とも妥当かつ有効と考えられる。実現可能性も高く、取組に期待される成果が得られる可能性が高いと認められる。能動学習制度にポイント制を導入した点は、学習者に目標を開示して評価が容易になるために学習意欲が向上する事が期待できる。</p> <p>今後の実施上の課題として、資料にある教員再教育については、重要なことなので推進していただきたい。また、能動学習制度のポイント制度の第三者評価等を明確にし、さらに、高いコミュニケーション能力を有する薬剤師を養成するとの教育目標が示されているが、それに対応する方法としては「薬学入門3」と3年次の「薬学セミナー」の開講が予定されている。この点については既存のものに留っており、工夫が期待される。</p>	